

## 活動テーマ

交流人口の増加とその交流の促進を通じた地域活性化

小川町 原川、笠原、靱負、木部、勝呂、木呂子、増尾、飯田地区  
立教大学

### 1 活動目的

地域住民が自立的に地域活性化および地域の課題解決に取り組む体制を、地域住民の方々と構築することを活動目的とする。この目的を達成するために「交流人口の増加とその交流の促進を通じた地域活性化」を本年度の活動テーマとした。地域活性化の議論において、「交流人口」を観光客と同義とする見解がある（総務省「地域への新しい入口」等）が、一般に観光の目的は地域住民との交流ではない。観光客は観光地の様々な地域資源を消費するためにその地域を訪れる。そこで、私たちは観光客として地域を訪れた訪問者たちが地域住民と多様な交流の機会をもつことが可能となるような活動を実施した（交流企画立案、実施、広報活動）。また、地域活性化を担う地域の若者が地域課題に興味関心をもつことを促すことを目的とした活動を行った。

### 2 活動地域の現状

埼玉県中央部よりやや西に位置し、面積は約60平方キロメートル（東京都世田谷区とほぼ同面積）の小川町は、江戸時代には江戸から秩父に至る道と八王子から上州に至る道が交差する商都として栄えた。また1970年代半ば以降、都内から離れた低価格の住宅需要の高まりとともに同町の人口も増え、1995年には38000人弱に達したがバブル経済の崩壊（1990年代末）から若年人口の流出、高齢化が進んでおり、2017年時点での人口は30619人、65歳以上の割合は30.3%に達している。また、本活動の主な対象地域である竹沢地区（原川、笠原、靱負、木部、勝呂、木呂子）の同割合は37.1%である。

このような人口減少と高齢化に伴い、地域コミュニティの地域行事の縮小、空き家や耕作放棄地の増加などの課題を抱えている。

### 3 活動内容

活動目的および本年度の活動テーマを達成するために、主に以下四領域の活動を実施した。①地域行事への参加、②地域資源を活用した地域活性化活動、③地域における世代間交流の促進、④交流人口の増加とその交流の促進を目的とした広報活動。

①地域行事への参加：地域住民および行政の企画実施する行事（「第3回、第4回おがわワイン祭り」、「第1回 OGAWA 盆ノ市」、「第70回小川町七夕まつり」）に参加した。

②地域資源を活用した地域活性化活動：耕作放棄地を利用した農作業を地域住民と実施した。また、地域の文化資源、自然資源、人的資源を活用する企画として写真ワークシ



ヨップを実施した。

③地域における世代間交流の促進：小川高等学校生徒と小川町議員との懇談会を実施した。またこの懇談会実施の準備として、小川高等学校生徒と協力して小川町議員を対象としたアンケートを実施した。



④交流人口の増加とその交流の促進を目的とした広報活動：小川町の観光マップの英語版を作成した。また、日本語の観光マップに動画を埋め込む作業を企画、開始した。また、活動内容をニューズレターにまとめて発刊した（3号発行）。



## 4 成果

①地域住民および行政の企画実施する行事に参加することで、企画を側面から支援すると同時に課題を把握することができた。小川町には多くの地域資源がありそれを活用した様々な企画が立案実施されている。しかし現状ではこれらの企画実施において特定の人に過大な負担が集中しているように思われた。支援隊の活動に地域行事参加を加えることで、このような負担の軽減に貢献することができた。



②耕作放棄地の利用を通して、地域住民との交流を深めることができた。また、写真ワークショップを実施することで、地域の人的資源（地域在住のカメラマンの協力）、文化資源（国指定重要文化財である「吉田家住宅」での実施）、自然資源（地域の豊かな自然を被写体としたワークショップ）を活用することができた。

③小川高等学校生徒と小川町議員との懇談会を盛況のうちに実施することができた。またこの懇談会実施の準備として、小川高等学校生徒とのスポーツイベントおよび小川高等学校生徒と協力して小川町議員を対象としたアンケートを実施することで信頼関係の醸成および地域活性化活動についての意識喚起をすることができた。



④海外からの観光客対応の一つとして、小川町の観光マップの英語版を作成することができた。また、地域の方の協力を得て日本語の観光マップに動画を埋め込む企画を提案し開始することができた（<https://ogawamachinami.wixsite.com/machinamimap> 「おがわ町並みマップ」のキーワードで検索可能。今後掲載動画数を増やしていく予定）。

## 5 課題

新たに小川町に移住してきた地域住民および小川町外からの活動参加者との連携は広がり、深まっているものの、古くから小川町に住む地域住民との交流活動はまだ十分に展開できていない。ニューズレターと並行してフェイスブックでも情報発信をしていたが、担当者が携帯電話を変えたことでパスワードの確認ができなくなり、年度の途中から内容を更新することができなくなってしまった。

## 6 次年度以降の計画

本年度の四領域の活動を引き続き継続する。特に、2020年度オリンピック開催時に増加することが予想される海外からの観光客に対応するために本年度作成した観光マップ英語版を活用する。また、本年度から本格的に始まった小川高等学校および小川町役場との連携事業を実施する。